

令和5年 ぼちぼちの会研修会報告

令和6年1月28日(日)14時から

本年度の研修会を臨床心理士の武部 愛子先生を講師にお招きして下記の要綱で実施しました。当日の参加者は28名ほどで、保護者をはじめ、小・中学校教員・支援学級担任・SSW・SCなど幅広く参加されました。講演の前半はテーマに沿ったお話、後半は、講師の先生に具体的な質問などを行い研修を深めることができました。武部先生のお話を聞くのは今回で11回目。他の保護者の会の学習会を含めるとかなりの数になります。しかし、お話を聞くたびにその内容が広がっていくのを感じます。今回も質疑応答の時間など先生の具体的な指導を仰ぎながら、単なる知識としてだけでなく具体的な対応法など多くのことを学ばせていただきました。普段から直接生徒や保護者と接して指導をされたり、各地での事例を積み重ねてこられている結果だと思えます。ありがとうございました。

～思春期・不登校・特別支援教育～

◎日時：令和6年1月28日(日)14時から

◎場所：福岡市立若久公民館 講堂(福岡市南区若久1丁目11-20)

◎講師：武部 愛子 先生(臨床心理士)

◎内容 ～思春期・不登校・特別支援教育～

生徒の進路情報・発達段階と親の関わり・障がいの理解など



- ・臨床心理士 ・福岡こども短期大学 子ども教育学科 特任教授
- ・福岡市教育委員 ・福岡市スクールカウンセラ運営委員
- ・太宰府市スクー ルカウンセラー
- ・福岡県スクー ルアドバイザー・発達障がい児等教育継続支援事業に係る巡回相談 相談委員

・学童保育協会 理事 ・福岡県臨床心理士会 理事博多学園高校スクー ルカウンセラー

講演内容

- ・コロナによって先生方のスキルが崩壊した。子どもと教師の関係の再構築。
- ・教師が充分子どもを見立てることができなくなった。3年間のブランクで距離をとってきた結果、10年前の特別支援教育が始まったときに似ている。
- ・子どもたちとどう接していくかを新しく作り直していく時代。
- ・SCが2年間で40人から120に増えた。福祉職から教育職に代わってきた方も多。学校現場でも新しい風が吹いている。
- ・発達段階と親のかかわりについて考える。
- ・幼児期は大人はひたすら受け入れる。(信頼関係を作る)
- ・学童期：家庭が世界。それをもとに学校に行く。(親のルールは世界のルール)子どもは親の顔を見て育つ。

- ・5・6年生から周囲の家庭と見比べるようになる。我が親攻撃が始まる。性ホルモンが出て、思春期となる（～20歳）。自分の主張（反発）を出すか悩む。
- ・集団の必要性—異なる世界を知って反発するか従うかを考える。（家庭の中で走ることのできない情報）
- ・折り合いのつけ方は年中一年長の頃に学ぶ。（他人は自分と違う考えをすることを学ぶ）
- ・「安全に」とは大人の見えないところをなくしていくことではあるが、子どもの退陣の調整する機会を奪うことになりかねない。
- ・第1次第2反抗期を経て親から少しづつ離れていく。（自立）
- ・大人のもりで偉そうなことを言っても、うまくいかないと戻ってくる。その繰り返しが自立。
- ・障害は「らしさ」（個性）だ。それぞれが「本人らしさ」を持って生きていく。
- ・障害は治すのではなく世の中とうまく付き合っていくことが大切。
- ・他者と自分の違いが分かり、どうやって行くかを受け止めること。
- ・「だよね。それでいい」200%子どもの味方になる。「こうしたら」の指示はいらない。7割の人に近づけるのではなく「それでいい」と止めるとしたら、どうしたらいいかを考える。
- ・障害を受け止めて（本人を）認める。
- ・うまくいかないのは本人がわざとではなく悪気はない。できないのは本人のせいではない。それが受け入れられないと「わかってくれない」と思い、人によって対応を変える。うまくいかなくなると2次障害がおこる。
- ・「空気が読めない」情緒障害：多少の違いは問題ない。自分が経験していないことは教えられない。
- ・本人が無理なく経験値を上げられる場所を進路として選ぶ。本人特性を考え経験できる場所を選ぶ。
- ・家庭がどれだけ手間をかけることができるかは本人のせいではない。手間のかかる子とともに生きていく。（気になる・心配は外からはどうしようもない。せめて否定しない。「気にするな」は禁句。そうなんだ・・・で止める。）
- ・経験値を上げる—フォローをする—落ちないように支える。認めてもらえることで元気が出てチャレンジ精神が出てくる。
- ・「あれがやりたい」を全て受け止める。「いいよ、やっpegらん」のフォロー。本人がやめておこうかな…そうやって自分のできることを学んでいく。
- ・これは無理。というより「できるためにはどう補助するかを考え、チャレンジする気を大切に育てる。」

質問意見

- ・皆伸び伸びやっていたのに「心の教室」という名前は「心に問題のある子どもの部屋」とみられているみたいだった。

・「**学校に行く意味が分からない。**」という子ども。正直、学校は大人が作ったものだからその意味はほとんどの子どもは分からない。ストレートな答え（押しつけ）を挙げるより、一緒に考えてみる。答えなんかでなくていい。大人になったら価値が考えられるかもしれない。まずは子どもの考えを受け入れる。原始時代（学校がなくても問題はない）学校に行かない理由としての「何か意味があるの」と聞く。授業は意味のないことをやらないといけない時代もある。（すべての人に今意味があるわけではない）

・**不登校＝楽をしている？** 楽をすることは楽しくない。楽をするため学校に行かない子はいない。何をしたらいいかがわからない。不登校は楽しくない。やりたいことだらけで忙しいくらいのほうが楽しい。一日も休まなかった子でも「学校は楽しくない」と言っていた。

・**幼児期につけなければいけないことをし損ねたらどうしたらいい？**

「友達とワイワイやれなかった。」「交流が苦手だった」→相手の腹を探るのが苦手。一表情を読めない→友達と付き合えない。結構大人になると払しょくされる。それは上下関係があるから、我慢して付き合える。大人になれば人数や立場によって行動できるから。

・同年代の中では難しい。同年代の中で考え方や行動が違う人がいる小中高はとくに難しい。（対人関係の基準が外部に規定されるので）

・ものを見る、人と付き合う必要のない環境を求める。人間関係を見ないようにする。

・**楽しくない。友達がいない。意味がない。→不登校。体が拒否して病状が出る。朝起きれない。**

起きれないのは学校に意味を感じてないから。睡眠が苦手。眠くならないと寝られない。何時になったら寝て、起きれるか気持ちの良いパターンを知る。（睡眠外来に行く）睡眠の質が悪いと意欲が出ない。年齢が上がると睡眠の問題は弊害が多きので今のうちに。

・**友達がいない**

友達がいない→本人だけの感覚。ネット上には友達がいる（錯覚：願望）。ネットではいいことしか言わないし、皆かっこよく見える。みんないいひと。それだけでは人間環境を学ぶのには適さない（現実乖離）。周囲を見るとみんな友達がいるように見える。自分だけいないと思う。

・**通信高校で友達ができない。友達の代わりに母親がなってもいいか？**

友達はできるときにできる。友達とうまくいかなかったり、誘って断られたりしたらどうしよう。負けん気の強いプライドの高い子が多く、失敗したくないと過剰に思っている。自分というものの意識が高い。まずは、人との接触を学ぶ。素のまま付き合える人が友達。付き合うことに面倒。気を使って疲れる。努力はしたくないが簡単に手に入れたい。

・**友友達関係で大学にいけなくなった。**

こうしてみたらとか学校に相談してみたらのアドバイスは、「公に相談したらとか、支援を受けるのはプライドが許さない。まずは、本人が一回現実を受け止めること、アドバイスは不要。同意はできても共生はできない。よく頑張っている本人を認める。どうしたらいい？と聞いてきたらどうしようと一緒に考える。最後の砦は信頼関係。

ぼちぼちの会 学習会（武部愛子先生）感想

<支援者>

*私は本人でも親でもない、関係機関として普段関わらせていただいておりますが、これからは本人の好きなこと、できることをほめる、できないことや不安なことは認めつつ一緒に考えていけたらと思いました。関わる中で、ついついこちら側の気持ちを言うってしまうこともある（反省）考えていく上で、私自身の思いや価値観もありますが今経験していること、今後経験していくことを見守れたらと思いました。

*私は日頃支援する立場として関わらせて頂くことが多く、どうしても支援をしていく中で、本人の障がいの特性や種別、年代別に何かあったものをと、どうしても考えがちになってしまっていたのですが、障がいは、「らしさ」であり上手く付き合っていくもの、心配や不安は否定をせず経験をつませることで出来る・分かるが増えると改めて先生のお話を聞いて支援する立場としてもっと本人の気持ちに寄り添っていけるといいなと感じることができました。

*通信制高校の教員をしています。教員との関わり方がもう少し柔らかくても良いのかなと思っていたので、先生のお話を聞いてそれでも良いのかなと思えました。

*特性のある方と不登校の方への私たちがともにできることを考える機会となり、どのようにお声掛けをすることができるのかを考えることとなりました。

貴重な時間を持つことができました。お話をしてくださったことを、これからのことに活かしていきたいと思えます。

<学校関係者>

*超個人的な悩みにも真摯に答えてくださりありがとうございました。心がふっと軽くなりました。全ての子どもたち（人）を否定しない、尊重する。これは人権尊重だなあと改めて思いました。押し付けないコントロールしない（学校の先生はすぐにそうしようとしてしまう…反省）この考えを大切にしたいと思えます。

<保護者・その他>

*私は皆さんが抱えている障がい（この講演のテーマ）＝発達障がいオンリーだと思っていたのですが、先生の話聞いてほかの方の背景を考えるきっかけを頂けたかなと感動しています。自分の視野をもっと広げます。

*久しぶりに武部先生のお話を聞かせて頂きました。一度は理解していたはずの考え方や捉え方を思い出しました。又お話を聞きたいです。

*ノートにたくさん書き留めることができました。「ひだまりの会」親の会、学童保育の仕事でもいろいろな場面で参考になる学びでした。

いつもなるほど！と思わされるお話を聞かせて頂きありがとうございました。

*新たなお話や親御さんの不安などを聞くことができ、その解答などを聞かせてもらい、とてもためになりました。わが子が今社会人となって、今思えば「そうだったなあ」と思

い返すこともあり、今は良かったなあと思いました。またお話を聞きたいと思っています。
*本人が無理なく経験値を上げられる場所という言葉が心にグッときました。小4で不登校になり半年、今は家でゆっくりと過ごしています。このまま見守り続けていいのか、寄り添っていいのか、悩むところです。本人が心地よく無理をしていない今を大切にしていきたいと思っています。

*司会者の冒頭で「子の不登校問題に向き合うのは苦しいが、おかげでいろいろな方につながれた」という感謝の言葉がキラキラと輝くようでした。武部先生と木村先生のやり取りが、とても素敵でした。トークになって素晴らしかったです。公民館で貴重な時間が持て参加しやすく来年も楽しみにしています。

<保護者・その他>

*心の心配を話せて少し楽になりました。具体的な方向を教えてください、これから実行しようと思います。又、今月の研修会に参加させて頂き、いろいろな悩み質問を聞き勉強になりました。「だよね」これから一緒に考えようと思いました。

<保護者からの相談・質問>

(感想)

*それぞれのご質問に、自身の経験が思い出され泣きそうでした。(現在大学4年生 就職間近)

(質問)

保護者として、相談窓口とつながる方法が今は確立しているのかどうか気になりました。

(相談)

*高1の息子

自閉症スペクトラム、知的障害があります。声の大きさがどこにいても大きい。バザーの時に行ったが、自分の話やしてもらいたい事のみを大きな声で言う。個性といわれるけど、そのうち浮いてきて、周りに相手にされなくなるのでは？空気が読めないのは、個性ですが、どのように本人に伝えていったらいいのか？いったところで本人に伝わらないかもしれない。どうしたらよいか？

